

第3章

地域別構想

- 1 地域区分の設定
- 2 地域別のまちづくりの方針

第 3 章 地域別構想

1 地域区分の設定

地域別構想は、全体構想との整合性を図りつつ、地域の特性を活かしたまちづくりを推進するため、地域住民などと行政が共有する身近なまちづくりの方針を明らかにするものです。

本市では、大きく、樽井駅・岡田浦駅の南海本線沿線を生活圏とした地域、和泉砂川駅・新家駅の JR 阪和線沿線を生活圏とした地域に区分されます。

このため、地域区分の設定にあたって、海側の地域については、埋め立て地であるりんくうタウン・関西国際空港の区域を関空・りんくう地域、旧防潮堤から(都)第二阪和国道までの区域を南海沿線地域とします。

山側の地域については、(都)第二阪和国道から阪和自動車道までの区域を JR 沿線地域、阪和自動車道から和歌山県境の区域を和泉葛城山麓地域とします。

序章

第1章

第2章

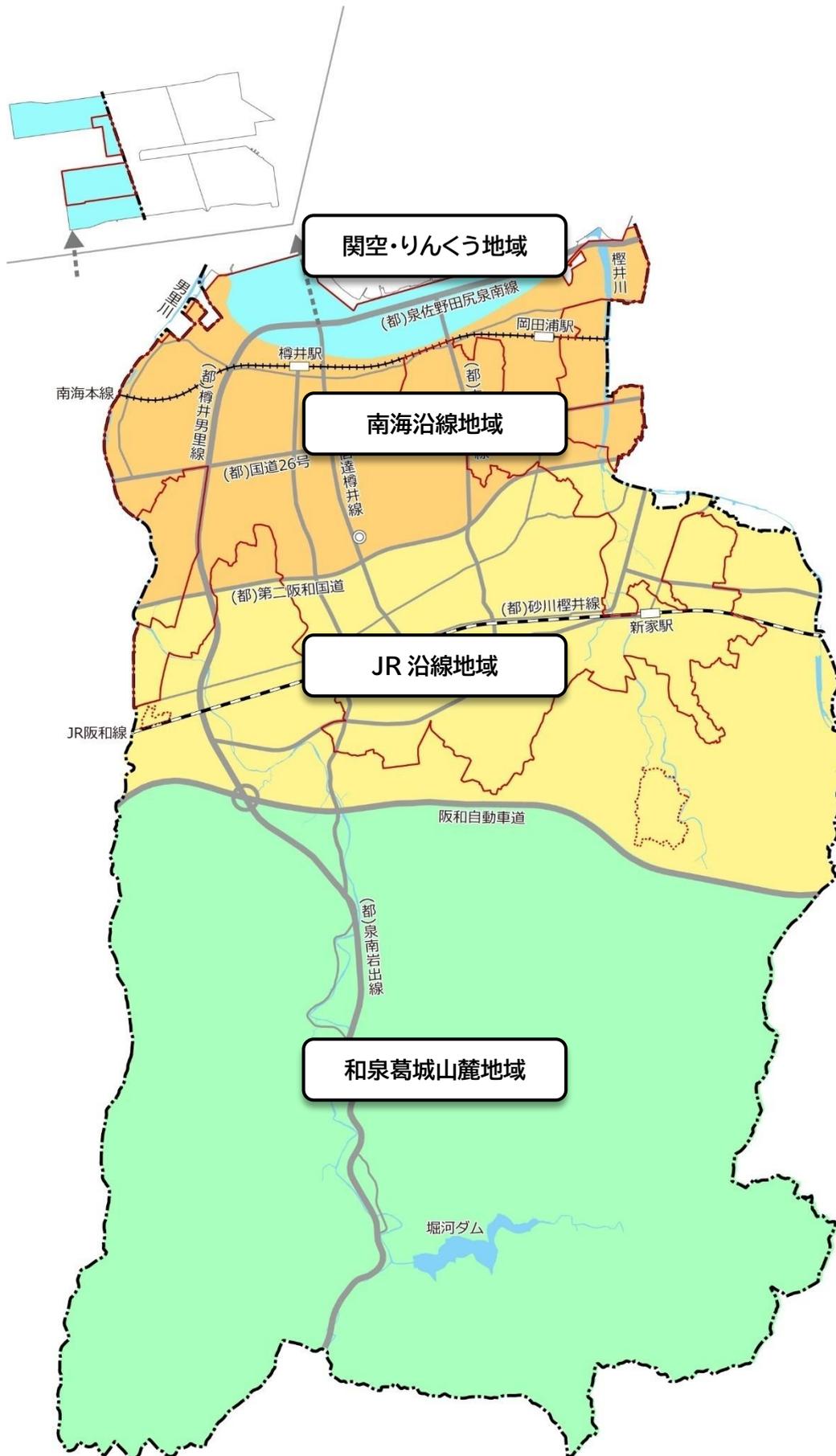
第3章

第4章

参考
資料

地域別構想
／
1 地域区分の設定

【地域区分図】



2 地域別のまちづくりの方針

(1) 関空・りんくう地域

1) 地域の概況

- ・本地域は、大阪湾を埋め立てた関西国際空港島とりんくうタウン南・中地区の区域で、海岸沿いを(都)泉佐野田尻泉南線が通り、りんくうタウンには大規模店舗、工場などのほか、下水処理場である南部水みらいセンターなどが立地しています。
- ・海岸沿いなどでは、泉南りんくう公園(SENNAN LONG PARK)、タレイサザンビーチ(海水浴場)やマーブルビーチ(憩いの場)、サザンスタジアム(泉南市民球場)などの観光・レクリエーション施設が整備されています。
- ・面積は約 456ha(市域の約9%)、人口は 318 人(市域の約 0.5%)で各地域のなかで最も小さい面積・最も少ない人口となっています。
- ・将来像に係る地域の意向は、特に、高齢者の暮らしやすさや子育てしやすさ、災害に対する安全・安心、店舗などの利便性や移動しやすいまちが求められています。

2) 地域の主な課題

① 観光・レクリエーションなどの活用

- ・海浜の美化など景観に配慮しつつ、観光・レクリエーション施設の更なる活用やネットワーク化が必要です。
- ・泉南りんくう公園(SENNAN LONG PARK)などの活用と適切な管理が必要です。
- ・地域住民の協力を得ながら、公園や遊歩道などの管理の充実が必要です。

② りんくうタウンの充実

- ・操業環境と周辺環境が調和した土地利用の誘導などとともに、魅力ある景観づくりを行い、賑わいを創出することが必要です。
- ・買い物の利便性や移動環境の確保が必要です。
- ・りんくうタウン内の津波・地震などへの対応が必要です。

③ 関西国際空港の機能向上

- ・国際物流拠点としての機能の強化を促進することが必要です。
- ・災害や事故などによる空港島の孤立化防止対策が必要です。
- ・国際空港の波及効果を活かすことが必要です。

3) 将来像と地域づくりの目標

賑わいのある美しい海辺のまち

- ① 四季を通じて賑わう観光・レクリエーション拠点機能の進化を図ります。
- ② 安全で活力のあるりんくうタウンの更なる発展を促します。
- ③ 世界をつなぐ空の玄関口、関西国際空港の機能拡充を促進します。

序章

第1章

第2章

第3章

第4章

参考
資料

地域別構想 / 2 地域別のまちづくりの方針(関空・りんくう地域)

4)地域づくりの方針

(1)土地利用の方針

市街化区域の方針

■商業業務地・近隣商業地

- ・大規模集客施設及び泉南りんくう公園(SENNAN LONG PARK)の区域については、更なる賑わいの向上に努めます。

■住工混在地

- ・工場と医療・福祉施設の共存関係を維持するため、地区計画に従い、多様な都市機能が調和した都市環境の維持に努めます。

■湾岸部

(りんくうタウン)

- ・既存建築物の増改築や土地利用の変更などの動向を踏まえ、地区計画の適切な運用に努めます。

(空港)

- ・関西国際空港島については、空港施設と位置づけ、都市的土地利用を図る区域では、空港関連各種施設などを適切に誘導し、機能拡充を促進します。

(2)道路・交通の方針

■幹線道路などの充実

- ・関西国際空港を中心とした広域交通ネットワークを充実するための阪神高速道路湾岸線の南伸などとともに、空港島のリスクマネジメント上、冗長性を確保するため、(仮称)関西国際空港連絡南ルートについては、新広域道路交通計画への位置づけを促進し、早期実現するため、要望及び広報活動を積極的に展開していきます。

■関西国際空港

- ・関西国際空港と連携し、広域経済の活性化やインバウンド(訪日外国人旅行)を活かした観光の活性化を図ります。また、アジアをリードする国際空港としての機能やアクセス性を強化するため、近隣市町と連携しながら、広域交通ネットワークの構築を促進します。

(3)公園・緑地の方針

■公園緑地の整備・充実

- ・泉南りんくう公園(SENNAN LONG PARK)においては、PFI事業(民間の資金、技術的能力などを活用する手法)により施設の適切な管理運営を継続します。りんくう南浜公園においては、拡充を図ります。

■親水空間の確保・保全

- ・マーブルビーチやタルイサザンビーチは、市民などが海と親しめる空間として、イベントの開催などソフト事業により賑わいの創出に努めます。
- ・(仮称)りんくうはらっぱ周辺では、生物多様性を確保するため、動植物の生息・生育環境を保全します。

(4) 下水道・河川の方針

■適切な維持管理

- ・「中部ポンプ場長寿命化計画」に基づき、設備などのライフサイクルコストの最小化を図ります。

■処理場の整備

- ・南部水みらいセンターの設備の増強を大阪府に要望するとともに、汚水管渠に流入する雨天時侵入水の対策などを推進します。
- ・循環型社会や脱炭素社会の実現を目指すため、南部水みらいセンターにおいて、処理水を泉南りんくう公園(SENNAN LONG PARK)やなみはやグランドへの散水としての再利用や太陽光発電プラントの適切な管理・運営とともに、大阪南下水汚泥広域処理場における発生汚泥の再資源化を引き続き要望します。

(5) 都市防災の方針

■避難機能の強化

- ・津波から命を守るため、市民・事業者などの協力を得ながら、津波避難ビルの追加指定などを進めます。

■災害に強い都市づくり

- ・りんくうタウン内は、引き続き無電柱化に努めます。

(6) 市街地・住宅地の方針

■産業拠点の形成

- ・工業や商業などの複合的な機能を有する施設が立地するりんくうタウン南・中地区は、地区計画制度などの活用により、良好な操業環境や商業サービス機能の維持に努めます。

(7) 地域環境の形成方針

■生物多様性の確保

- ・都市における生物多様性を確保するため、大阪湾に残った貴重な自然海岸である男里川河口付近の自然干潟及び(仮称)りんくうはらっぱ周辺においては、地域団体などと様々な鳥類やハクセンシオマネキなどの生息環境を保全します。

■環境保全対策

- ・働きやすく住みやすい環境を創るため、用途地域や地区計画制度の活用などにより、適切に操業環境と周辺の環境が調和する土地利用に努めます。
- ・関西国際空港における「環境ビジョン 2050」に基づくカーボンニュートラル化に向けた取組を支援します。

■観光・レジャー・レクリエーション機能の維持・充実

- ・りんくうタウンの海浜部の恵まれた自然環境や泉南りんくう公園などのレクリエーション資源を活用し、四季を通じた体験型の観光・レジャー・レクリエーション機能の進化を図り

ます。

- ・本市の魅力を高めるため、岡田漁港での養殖アナゴや水揚げされる新鮮な泉ダコなどの海産物や水なすなどの農産物など特産品の広報・PR 活動を行うとともに、他の観光資源との連携や新たな地域資源の発掘に努めます。

(8)都市景観の形成方針

■自然景観の保全

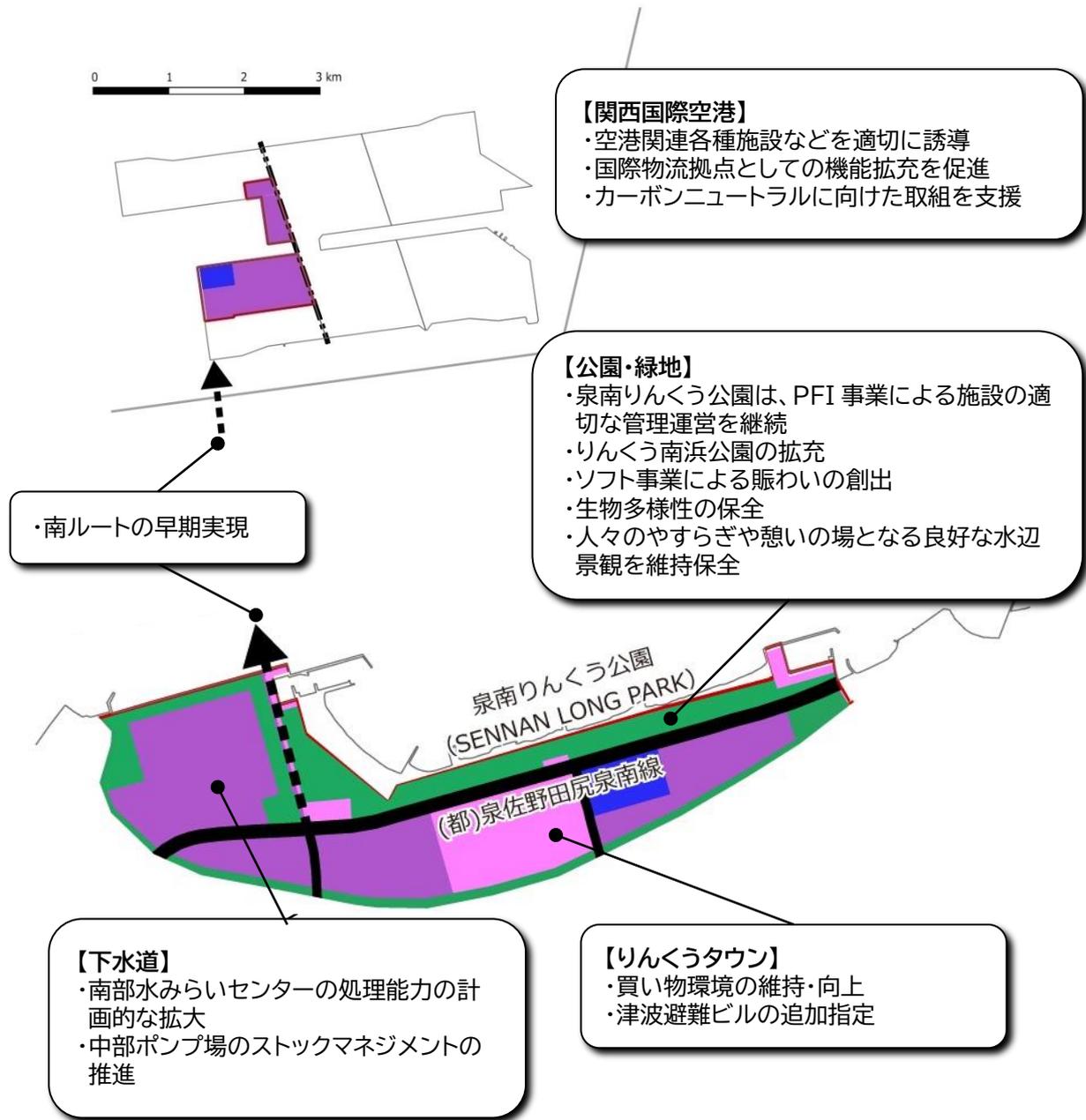
(湾岸部景観)

- ・マーブルビーチや自然干潟などを含むりんくうタウン周辺の湾岸区域は、人々のやすらぎや憩いの場となる良好な水辺景観を維持保全し、魅力ある景観の維持・向上に取り組めます。

(内陸部景観)

- ・りんくうタウン内陸部は、引き続き無電柱化に努めます。

関空・りんくう地域 地域づくり構想図



・南ルートの早期実現

【関西国際空港】
 ・空港関連各種施設などを適切に誘導
 ・国際物流拠点としての機能拡充を促進
 ・カーボンニュートラルに向けた取組を支援

【公園・緑地】
 ・泉南りんくう公園は、PFI 事業による施設の適切な管理運営を継続
 ・りんくう南浜公園の拡充
 ・ソフト事業による賑わいの創出
 ・生物多様性の保全
 ・人々のやすらぎや憩いの場となる良好な水辺景観を維持保全

【下水道】
 ・南部水みらいセンターの処理能力の計画的な拡大
 ・中部ポンプ場のストックマネジメントの推進

【りんくうタウン】
 ・買い物環境の維持・向上
 ・津波避難ビルの追加指定

凡 例	
	近隣商業地
	住工混在地
	工業地
	都市公園（整備済）
	整備済（事業中含む）
	現行市街化区域界
	市域界

【地域全体に関する取組】
 ・良好な操業環境や商業サービス機能の維持
 ・道路、公園、下水道などの維持管理・更新
 ・魅力ある景観の維持・向上



- 序章
- 第1章
- 第2章
- 第3章
- 第4章
- 参考資料

(2)南海沿線地域

1)地域の概況

- ・本地域は、りんくうタウンの区域山側から(都)第二阪和国道までの区域で、地区の海側を南海本線が通り、樽井駅と岡田浦駅があります。
- ・大阪・和歌山方向では、地区の中央を(都)国道 26 号線、山側の地域境界に沿って(都)第二阪和国道が通っています。海・山方向には、(都)樽井男里線・(都)泉南岩出線、樽井駅～市役所～和泉砂川駅を結ぶ(都)信達樽井線・(都)市場岡田線などの幹線道路が通っています。
- ・地域内は第一種住居地域及び準工業地域を中心とする市街化区域と市街化調整区域に区分されています。
- ・公共施設は(都)信達樽井線沿いに集積しており、市役所、泉州南消防組合(泉南署)、図書館、文化ホール、泉南市総合福祉センター(あいびあ泉南)、市民体育館などが整備されています。
- ・面積は約 711ha(市域の約 15%)、人口は 24,705 人(市域の約 41%)で、JR沿線地域に次いで多い人口となっています。人口伸び率は、平成 27(2015)年から約 3%の減少となっています。
- ・将来像に係る地域の意向は、特に、高齢者の暮らしやすさや子育てやすさ、移動のしやすさ、災害に対する安全・安心なまちが求められています。

2)地域の主な課題

①拠点地区などの充実

- ・都市拠点や地域拠点の鉄道駅周辺などでは、生活サービス機能の維持・向上や交通結節機能の強化などが必要です。
- ・鉄道駅周辺における歩道のバリアフリー化が必要です。
- ・市役所やその他周辺の公共施設は、行政機能やコミュニティ機能などの維持・向上を図るため、多機能型中心拠点としての施設の再編が必要です。

②道路環境の整備

- ・地域の骨格となる道路交通ネットワークの強化が必要です。
- ・幹線道路では、適正な沿道土地利用の誘導や沿道景観などの形成が必要です。
- ・駅周辺のバリアフリーや狭あいな生活道路の改善が必要です。

③生活環境機能や観光機能の維持・向上

- ・公園や多面的な機能を有する農地の保全・活用などの検討が必要です。
- ・下水道の整備や低地帯への浸水対策が必要です。
- ・地域の資源を活用した、観光機能の維持・向上や観光ネットワークの形成が必要です。

3)将来像と地域づくりの目標

多様な都市活動や市民活動を支えるまち

- ①鉄道駅周辺の再生や市役所周辺の機能を高めます。
- ②歩行者・自転車・自動車に便利で快適な移動空間を確保します。
- ③地域資源を活用し、海手の賑わいを山手の方につなげます。

4)地域づくりの方針

(1)土地利用の方針

市街化区域の方針

■商業業務地・近隣商業地

- ・南海樽井駅周辺は、本市の玄関口にふさわしい商業業務地と位置づけ、市民生活の質を高めるため、交通結節点機能の強化とともに、土地の有効活用や高度利用を促進し、商業・業務機能や居住機能などの集積を図ります。
- ・南海岡田浦駅周辺を近隣商業地として位置づけ、市有地を含む遊休不動産を活用しつつ、地域における生活利便性を高めるため、日常サービス施設の集積を図ります。なお、地域特性に合った集客施設は、都市機能の集積(拠点集約型)や交通ネットワーク(幹線道路沿道型)の状況などを考慮した上で適正な立地を誘導します。

■中高層住宅地

- ・鉄道駅・教育施設を中心とした住宅地、旧集落地の区域などは、中高層住宅地として位置づけ、住環境の維持・向上や改善に努めます。

■一般住宅地

- ・住宅と店舗、事務所、小規模な工場などが混在する住宅地の区域は、一般住宅地として位置づけ、防災性の向上に配慮しつつ、多様な用途の共存に努めます。なお、地域特性に合った集客施設は、地区計画制度などにより周辺の状況を考慮した適正な立地を誘導します。

■住工混在地

- ・小規模な工場と住宅などが混在する区域は、住工共存地と位置づけ、住環境と操業環境との共存関係を維持し、必要に応じて、地区計画制度の活用により、多様な都市機能が調和した都市環境の維持に努めます。

■沿道利用地

- ・市域を横断する広域幹線道路である(都)第二阪和国道、(都)樽井男里線、(都)泉南岩出線、(都)国道26号線、(都)信達樽井線、(都)市場岡田線(府道などを含む)の沿道は、沿道利用地として、周辺環境に配慮し、地区の特性に応じた沿道関連サービス施設などの適正な産業の立地を誘導します。

市街化調整区域の方針

■沿道利用地

- ・(都)第二阪和国道、(都)泉南岩出線、(都)国道26号線、(都)市場岡田線など(府道などを含む)の幹線道路沿道は、沿道利用地として周辺の営農などに配慮しつつ、地区計画制度などの活用により、地区の特性に応じ、産業・業務施設などの立地を適正に誘導します。

■農業地域

- ・農地については農業地域として位置づけ、優良な農地の保全を図るとともに、地区計画制度などの手法を検討し、農林業振興に寄与する農産物加工場、6次産業などの工場、新たな農業施設や店舗などの適正な立地を誘導します。

(2)道路・交通の方針

■幹線道路などの充実

- ・市内の主要拠点を結び、市域の骨格となる(都)信達樽井線などの都市計画道路の整備を推進します。また、新設道路については、無電柱化を検討します。

■安全で快適な道路空間の確保

- ・南海樽井駅周辺においては、「バリアフリー基本構想」の見直しにあわせて、重点整備地区内道路のバリアフリー化などの促進と進捗管理を行うとともに、南海岡田浦駅周辺においても基本構想に基づきバリアフリー化を進めます。

■道路橋の維持管理

- ・橋梁については、法令に基づく定期的な点検を実施するとともに、「泉南市橋梁の長寿命化修繕計画」に基づき、予防的・計画的な対応に転換し、費用の縮減及び道路の安全性・信頼性を確保します。

■生活道路、通学路の安全確保

- ・日常生活に密着した生活道路の利便性と通行の安全性及び防災性の向上を図るため、沿道建築物の更新や公共施設の最適化とあわせて市民などの協力のもと、狭い道路の拡幅などに努めます。
- ・アドプト・ロード(プログラム)への団体加入を PR するなど、市民協働による適切な道路の管理に努めます。
- ・通学路に指定されている道路については、道路管理者、警察などと連携した通学路安全対策推進協議会を開催し、交通安全施設などの整備を推進します。
- ・保護者や地域の方々と連携し、通学路の安全確保に努めます。

■駅前広場などの整備

- ・南海樽井駅では、交通結節点機能を強化するため、駅前広場などの更新を進めます。また、南海岡田浦駅については、岡田浦駅周辺地区公共施設等再編事業において、駅周辺の特性を踏まえた整備を進めます。

■自転車通行空間の整備

- ・「泉南市自転車活用推進計画」に基づき(都)第二阪和国道における自転車道の整備や、幹線道路において自転車通行空間の確保に努めるとともに、市内における自転車の適正利用について周知・啓発を推進します。

■鉄道の充実

- ・鉄道駅へのアクセス性の向上とともに、列車運転本数の維持や無人駅対策について鉄道事業者に働きかけます。

(3)公園・緑地の方針

■公園緑地の整備・充実

- ・長期未着手の泉南中央公園予定地については、暫定利用を行いつつ、今後のあり方を検討します。また、男里公園については、周辺施設の取組の動向によって、再配置などを検討します。

・ため池をはじめ、伝統的な地域資源を活用し、レクリエーション機能や観光機能の向上に努めます。

■公園などの適切な維持・管理

・「公園施設長寿命化計画」に基づき、遊具などの安全対策の強化とライフサイクルコストの縮減に努めるとともに、「泉南市都市公園等管理運営プラン」に基づき都市公園の適切な維持管理に取り組みます。

■親水空間の確保・保全

・男里川河口付近の自然干潟周辺では、生物多様性を確保するため、動植物の生息・生育環境を保全します。

■地域制緑地の保全

・市街化区域内農地などについては、農業と調和した良好な都市環境を確保するため、市街地の貴重なみどりやオープンスペース、防災機能に着目し、生産緑地地区の追加指定や、特定生産緑地の適切な管理を促進します。

・男神社周辺の特別緑地保全地区では、良好な社叢林などの保全に努めます。

(4)下水道・河川の方針

■汚水施設の整備

・下水道事業の効率化と健全な経営化を図るため、「泉南市公共下水道整備計画」に基づき、下水道普及率の向上に努めます。

・下水道計画区域外については、単独浄化槽などから合併浄化槽への設置替えを促進します。

■雨水施設の整備

・「泉南市公共下水道整備計画」に基づき、浸水被害の軽減を図るため、老朽化している下水道施設の改修・改築を検討します。

■適切な維持管理

・ゲリラ豪雨などによる浸水被害を防止するため、雨水幹線取込口などの能力を十分に発揮できるよう、適切な維持管理を行い、内水氾濫の対策を進めます。

・「泉南市ストックマネジメント計画」に基づき、大里川ポンプ場の移転・建替え及び建替え期間までの設備更新や管渠などの適切な維持管理を行います。

・雨天時などに汚水管へ流入する不明水対策などを推進します。

■河川の治水対策

・樫井川水系流域及び男里川水系流域については、確実な総合治水対策を推進するため、大阪府の流域治水プロジェクトの進捗を注視しながら、効率的な浸水被害対策に取り組みます。

・樫井川、男里川などの土砂堆積傾向区間における土砂浚渫などを促進します。

■河川環境の改善と意識の高揚

・樫井川、男里川は、地域住民などのニーズに応じて関係機関などと連携し、地域住民が愛着を持てる親水空間を整備します。

- ・自発的な地域活動を河川の美化につなげる「アドプト・リバー・プログラム」により、市民協働による清掃活動への取組の拡大を促進します。

■ため池の改修

- ・ため池の堤体が決壊した場合に備え、防災受益面積が広範囲で、近隣施設への影響が大きいと予想されるため池を対象にハザードマップを随時作成していくとともに、耐震性の向上が必要なため池の改修を促進します。
- ・ため池の防火用水としての機能も含めた防災活用について、調査・あり方の検討を行います。

(5)その他公共施設の方針

■ごみ焼却場

- ・泉南ごみ焼却場(泉南清掃工場)については、令和6(2024)年に都市計画決定し、泉南清掃事務組合が老朽化した清掃工場を建て替えます。

■集会施設

- ・公民館については、地域住民のコミュニティ活動を確保・促進するため、現状を維持しつつ、必要に応じて集会所などの周辺機能を集約・複合化を進め、拠点化を図ります。
- ・集会所は、区・自治会の意向調査などや民間譲渡への可能性調査を進めつつ、隣接する集会所などの統合や地元への譲渡を促すとともに、民間への機能移転について検討します。
- ・老人集会場は集会所とあわせて検討します。

(6)都市防災の方針

■避難機能の強化

- ・企業などの防災活動や資機材の保管倉庫棟に必要な広場などの確保に努めます。
- ・防災農地の登録制度など、災害時の避難場所や復旧活動のスペースを確保します。
- ・津波から命を守るため、市民・事業者などの協力を得ながら、津波避難ビルの追加指定などを進めます。

■災害に強い都市づくり

- ・避難路や延焼遮断空間としての機能を有する緊急交通路などの整備に努めます。
- ・道路などの公共施設が不足し、木造建築物の多い地区については、狭あい道路の改善や公園・緑地などのオープンスペースの確保に努めます。
- ・重要な防災拠点である市役所のあり方、耐災化及び災害時の代替施設の確保を推進します。

(7)市街地・住宅地の方針

■都市拠点の充実

- ・南海樽井駅周辺は、海側の都市拠点として、商業・業務施設などの集積とともに、公共施設の最適化に取り組み、都市機能の強化を図ります。

■地域拠点の充実

- ・南海岡田浦駅周辺は、地域拠点として、自然災害対策や歴史環境などの調和に配慮しつつ、日常の生活利便機能などの誘導とともに、地域住民の利便増進を図るため、公共施設跡地などの有効活用を図ります。

■多機能型中心拠点の形成

- ・市役所周辺の多機能型中心拠点では、行政機能やコミュニティ機能などの維持・向上を図るため、老朽化した公共施設の最適化の検討を進めます。

■空き家対策の推進

- ・空き家所有者などに対する適正管理の意識啓発、専門家による相談窓口体制の整備及び利活用の促進を図るため、情報提供や支援に取り組みます。
- ・管理不全な状態にある空き家などに対して、「空家等対策の推進に関する特別措置法」による措置を的確に講じます。また、特定空家などを含む特定の要件を満たす空き家などの除却促進のため、除却費用の一部について補助を実施します。

■市営住宅の効率的な運用

- ・「泉南市営住宅長寿命化計画」に基づき、住宅ストックの最適化及び日常的な維持管理を適正に行うとともに、長寿命化及びライフサイクルコストの縮減に努め、計画的な改修や建替えなど、安心して暮らせる住まいの提供を図ります。

■環境にやさしい住宅の普及

- ・生活環境の保全、公衆衛生の向上を図るため、「泉南市生活排水処理基本計画」により、公共下水道及び合併浄化槽の普及を促進します。

(8) 地域環境の形成方針

■農空間の保全と活用

- ・「泉南市農業振興地域整備計画」に基づき、都市的土地利用と農業的土地利用との健全な調和の観点から保存すべき農地を確保する一方、幹線道路沿道を活用した健全で秩序ある土地利用を促進します。

■環境保全対策

- ・働きやすく住みやすい環境を創るため、用途地域や地区計画制度の活用などにより、適切に操業環境と住環境が調和する土地利用に努めます。

■観光・レジャー・レクリエーションの機能の維持・充実

- ・本市の魅力を高めるため、水なすなどの農産物など特産品の広報・PR活動を行うとともに、他の観光資源との連携や新たな地域資源の発掘に努めます。

■観光資源のネットワーク化

- ・インバウンド観光などを促進するため、市内事業者のほか、DMO や鉄道事業者などと連携を深め、熊野街道や史跡海会寺跡などの観光資源につなぐ方策を検討し、デジタルサイネージや SNS などを活用した情報発信に努めます。

(9)都市景観の形成方針

■自然景観の保全

【河川・ため池景観】

- ・樫井川、男里川などの河川や市内に多数点在するため池については、良好な水辺景観を維持し、和泉葛城山系からの特色ある眺望景観を確保します。

■まちなみ景観の保全・創出

【市街地景観】

- ・市街地や集落地におけるまちなみ景観の向上を図るため、地区計画や建築協定制度の活用により、地域の特性に応じたきめ細かな景観づくりを進めます。また、農空間においては、季節に応じた風景を維持します。

【沿道景観】

- ・広域幹線道路である(都)第二阪和国道沿道区域や、本市の中心都市軸である(都)信達樽井線においては、まちなみやまとまりに調和した秩序ある景観を創出する軸として質の高い道路景観を創出します。
- ・その他の幹線道路は、沿道市街地と一体となった沿道景観の向上に寄与する景観を創出します。

南海沿線地域 地域づくり構想図

【樽井駅及び周辺】

- ・道路のバリアフリー化の促進と進捗管理
- ・駅前広場などの更新
- ・列車運転本数の維持
- ・公共施設の再編

【岡田浦駅及び周辺】

- ・公共施設跡地を活用した都市の再生（駅前広場、生活利便施設の誘導、コミュニティ施設など）
- ・駅及び道路等のバリアフリー化の推進

【概ね南海本線海側の区域】

- ・避難ビルの追加指定の推進
- ・湾岸景観の保全

- ・ごみ焼却場の更新
- ・男里川河口自然干潟周辺における動植物の生息・生育環境の保全
- ・男里公園の配置を踏まえた大里川ポンプ場のストックマネジメント

- ・道路沿道（調整区域）における地区計画制度などの活用を検討

- ・男神社特別緑地保全地区の良好な社叢などの保全

- ・泉南中央公園のあり方を検討

- ・農業環境などに配慮し、地区の特性に応じた産業・業務施設などの立地を適正に誘導
- ・農空間においては、季節に応じた風景を維持

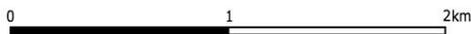
- ・多機能中心拠点の形成
- ・（都）信達樽井線においては、本市の中心都市軸にふさわしい質の高い道路景観を創出

- ・準工業地域への変更を検討

凡 例	
	近隣商業地
	中高層住宅地
	一般住宅地
	住工混在地
	用途地域変更検討箇所
	沿道利用地
	農業地域
	都市公園（整備済）
	都市公園（未整備）
	レクリエーション施設
	男神社特別緑地保全地区
	整備済（事業中含む）
	未整備（暫定供用含む）
	主要河川等
	現行市街化区域界
	市域界

【地域全体に関する取組】

- ・道路、公園、下水道などの維持管理・更新
- ・市民などの協力による安全な道路の確保や狭あいな道路の拡幅
- ・橋梁の長寿命化
- ・自転車通行空間の整備
- ・市街化区域内農地などにおける適切な管理と生産緑地地区の追加指定
- ・公共下水道整備、下水道計画区域外における合併浄化槽への設置替えの促進
- ・生物多様性への配慮
- ・市役所など公共施設やコミュニティ施設の再編検討
- ・災害時における防災農地などの活用
- ・木造建築物などの多い地区におけるオープンスペースを確保



(3)JR 沿線地域

1)地域の概況

- ・本地域は、(都)第二阪和国道から阪和自動車道までの区域で、地域中央部を JR 阪和線が通り、和泉砂川駅と新家駅があります。
- ・大阪・和歌山方向では、地域の海側境界に沿って(都)第二阪和国道、JR 阪和線沿いに(都)砂川樫井線、山側の境界に沿って阪和自動車道が通っています。海・山方向には、(都)泉南岩出線、樽井駅～市役所～和泉砂川駅を結ぶ(都)信達樽井線、一部が供用されている(都)市場岡田線などの幹線道路が通っています。
- ・地域内には、(都)第二阪和国道沿いの準工業地域、UR 泉南一丘団地周辺の第一種中高層住居専用地域や、高度成長期に開発された外縁部の第一種低層住居専用地域などを中心とする市街化区域と市街化調整区域に区分されています。
- ・公共施設は駅周辺に公民館、府道と和歌山貝塚線沿いに各地区の集会所や埋蔵文化財センター、史跡海会寺広場などが立地しています。
- ・面積は約 1,288ha(市域の約 26%)、人口は 34,288 人(市域の約 57%)で市域では最も多い人口となっています。人口伸び率は、平成 27(2015)年から約 4%の減少となっています。
- ・将来像に係る地域の意向は、特に、移動のしやすさ、高齢者の暮らし、災害に対する安全・安心なまちが求められています。

2)地域の主な課題

①鉄道駅周辺の整備と活性化

- ・和泉砂川駅周辺、新家駅周辺における生活サービス機能などの維持・向上が必要です。
- ・和泉砂川駅、新家駅周辺の円滑な道路交通の確保が必要です。

②道路や生活環境施設の充実

- ・海側との道路交通ネットワークの強化、幹線道路沿道や泉南 IC 周辺での適正な土地利用の誘導が必要です。
- ・歩道のバリアフリー化など通行しやすい道路環境の確保が必要です。
- ・公園の適切な管理、下水道などの整備や樫井川・新家川・金熊寺川の治水対策などが必要です。

③地域環境の向上

- ・熊野街道(紀州街道)の歴史的まちなみや信達宿本陣跡などの保全・活用が必要です。
- ・地域の資源を活用した、観光機能の維持・向上や観光ネットワークの形成が必要です。
- ・優良な農地の保全と既存集落のコミュニティ活動の維持が必要です。

3)将来像と地域づくりの目標

みどりや歴史と調和した暮らしと活力のあるまち

- ①地域の顔となる鉄道駅周辺を整えます。
- ②利便性の高い良好な住環境の確保や新たな産業拠点を形成します。
- ③地域資源を活用し歴史文化を基軸とした地域環境をつくります。

4)地域づくりの方針

(1)土地利用の方針

市街化区域の方針

■商業業務地・近隣商業地

- ・JR 和泉砂川駅周辺は、本市の玄関口にふさわしい商業・業務地と位置づけ、市民生活の質を高めるため、交通結節点機能の強化(西口及び東口)とともに、土地の有効活用や高度利用を促進し、商業業務機能や居住機能などの集積を図ります。
- ・JR 新家駅周辺を近隣商業地として位置づけ、市有地を含む遊休不動産を活用しつつ、地域における生活利便性を高めるため、日常サービス施設の集積を促進する施策を検討します。なお、地域特性に合った集客施設は、都市機能の集積状況や交通ネットワークの状況などを考慮した上で適正な立地を誘導します。

■低層住宅地

- ・計画的に開発された一団の低層住宅地の区域などは、低層住宅地として位置づけ、空き家の発生などによる都市のスポンジ化対策に配慮し、良好な居住環境の維持に努めます。また、居住誘導政策に応じて、多様な世代の居住促進などによるまちの再生を検討します。

■中高層住宅地

- ・UR 泉南一丘団地は、UR 都市機構の計画に基づき、定住促進及び住み替え循環などにより、持続可能な団地として、隣接学校施設の再編計画の取組も踏まえ、エリア価値向上に向けて UR 都市機構と連携して取り組みます。
- ・鉄道駅・教育施設を中心とした住宅地、旧集落地の区域などは、中高層住宅地として位置づけ、市有地を含む遊休不動産を活用しつつ、良好な住環境の維持・向上や改善に努めます。

■一般住宅地

- ・住宅と店舗、事務所、小規模な工場などが混在する住宅地の区域は、一般住宅地として位置づけ、防災性の向上に配慮しつつ、多様な用途の共存に努めます。

■住工混在地

- ・小規模な工場と住宅などが混在する区域は、住工共存地と位置づけ、住環境と操業環境との共存関係を維持し、必要に応じて、地区計画に従い、多様な都市機能が調和した都市環境の維持に努めます。

■沿道利用地

- ・市域を横断する広域幹線道路である(都)第二阪和国道、(都)信達樽井線、(都)泉南岩出線、(都)砂川樫井線など(府道などを含む)の沿道は、沿道利用地として、周辺環境に配慮し、地区の特性に応じた沿道関連サービス施設などの適正な産業の立地を誘導します。

市街化調整区域の方針

■駅周辺型居住検討地域

- ・新家駅の徒歩圏の区域は、駅周辺型居住検討地域として位置づけ、農業施策との整合に配慮しながら、地区計画制度などの活用により、生活利便性を備えた良好な住宅を主とした市街地の形成を図り、居心地よく歩きたくなるまちづくりを検討します。

■郊外型産業検討地域

- ・泉南 IC 周辺の区域については、郊外型産業検討地域として位置づけ、周辺の自然環境に配慮しつつ、地区計画制度などの活用により、立地の優位性を活かし、市全体の活力を推進する様々な産業などの適正な立地を誘導します。

■沿道利用地

- ・(都)第二阪和国道、(都)泉南岩出線、(都)砂川樫井線など(府道などを含む)の幹線道路沿道は、沿道利用地として周辺の農業環境などに配慮しつつ、地区計画制度などの活用により、地区の特性に応じ、産業・業務施設などの立地を適正に誘導します。

■農業地域

- ・農地及び農家集落の区域については、農業地域として位置づけ、優良な農地の保全を図るとともに、地区計画制度などの手法を検討し、既存集落の維持、農林業振興に寄与する農産物加工場、6次産業などの工場、新たな農林水産業施設などの適正な立地を誘導します。

(2)道路・交通の方針

■幹線道路などの充実

- ・(都)砂川樫井線の早期供用開始を目指します。

■都市計画道路の見直し

- ・都市計画道路については、ネットワーク機能や市街地形成機能、都市防災機能などを考慮した必要性、実現性や代替性など、総合的な検証を行った上で、引き続き見直しを進めます。

■安全で快適な道路空間の確保

- ・JR 和泉砂川駅及び新家駅周辺においては、各「バリアフリー基本構想」の見直しにあわせて、重点整備地区内道路のバリアフリー化などの促進と進捗管理を行います。

■道路橋の維持管理

- ・橋梁については、法令に基づく定期的な点検を実施するとともに、「泉南市橋梁の長寿命化修繕計画」に基づき、予防的・計画的な対応に転換し、費用の縮減及び道路の安全性・信頼性を確保します。

■生活道路、通学路の安全確保

- ・日常生活に密着した生活道路の利便性及び通行の安全性及び防災性の向上を図るため、沿道建築物の更新や公共施設の最適化とあわせて市民などの協力のもと、狭あいな道路の拡幅などに努めます。
- ・アドプト・ロード(プログラム)への団体加入を PR するなど、市民協働による適切な道路

の管理に努めます。

- ・通学路に指定されている道路については、道路管理者、警察などと連携した通学路安全対策推進協議会を開催し、交通安全施設などの整備を推進します。
- ・保護者や地域の方々と連携し、通学路の安全確保に努めます。

■駅前広場などの整備

- ・JR 新家駅では、交通結節点機能を強化するため、駅前広場などの更新・整備を進めるとともに、暫定供用中の JR 和泉砂川駅では、再整備を進めます。

■自転車通行空間の整備

- ・「泉南市自転車活用推進計画」に基づき（都）第二阪和国道における自転車道の整備や、幹線道路における自転車通行空間の確保に努めるとともに、市内における自転車の適正利用について周知・啓発を推進します。

■鉄道の充実

- ・鉄道駅へのアクセス性の向上とともに、列車運転本数の維持や無人駅対策について鉄道事業者に働きかけます。

■バス交通などの充実

- ・コミュニティバスをはじめ、路線定期型交通などを組み合わせた、公共交通ネットワークの形成に努めます。

(3)公園・緑地の方針

■公園緑地の整備・充実

- ・「泉南市都市公園等管理運営プラン」に基づき、依池公園においては、P-PFI など官民連携(PPP)手法の導入や、市民参加による公園の整備、リニューアル化に取り組みます。

■公園などの適切な維持・管理

- ・「公園施設長寿命化計画」に基づき、遊具などの安全対策の強化とライフサイクルコストの縮減に努めるとともに、「泉南市都市公園等管理運営プラン」に基づき都市公園などの適切な維持管理に取り組みます。

■地域制緑地の保全

- ・市街化区域内農地などについては、農業と調和した良好な都市環境を確保するため、市街地の貴重なみどりやオープンスペースや防災機能にも着目し、生産緑地の追加指定や、特定生産緑地の適切な管理を促進します。

(4)下水道・河川の方針

■汚水施設の整備

- ・下水道事業の効率化と健全な経営化を図るため、「泉南市公共下水道整備計画」に基づき、下水道普及率の向上に努めます。
- ・下水道計画区域外については、単独浄化槽などから合併浄化槽への設置替えを促進します。

■適切な維持管理

- ・ゲリラ豪雨などによる浸水被害を防止するため、雨水幹線取込口などの能力を十分に発揮できるよう、適切な維持管理を行い、内水氾濫の対策を進めます。
- ・「泉南市ストックマネジメント計画」に基づき、管渠などの適切な維持管理を行います。
- ・雨天時などに污水管へ流入する不明水対策などを推進します。

■河川の治水対策

- ・樫井川、新家川などの土砂堆積傾向区間における土砂浚渫などを促進します。

■河川環境の改善と意識の高揚

- ・樫井川、金熊寺川は、地域住民などのニーズに応じて関係機関などと連携し、地域住民が愛着を持てる親水空間を整備します。
- ・泉佐野市に隣接する樫井川の区間においては、沿川の歴史資源や自然環境を活かした魅力ある水辺空間を創出するため、大阪府・泉佐野市の「かわまちづくり計画」と連携します。

■ため池の改修

- ・ため池の堤体が決壊した場合に備え、防災受益面積が広範囲で、近隣施設への影響が大きいと予想されるため池を対象にハザードマップを随時作成していくとともに、耐震性の向上が必要なため池の改修を促進します。
- ・ため池の防火用水としての機能も含めた防災活用について、調査・検討を行います。

(5)その他公共施設の方針

■汚物処理施設

- ・双子川浄苑については、施設の建替えとあわせて効率的な運用を図ります。

(6)都市防災の方針

■避難機能の強化

- ・企業などの防災活動や資機材の保管倉庫棟に必要な広場などの確保に努めます。
- ・防災農地の登録制度など、災害時の避難場所や復旧活動のスペースを確保します。

■災害に強い都市づくり

- ・浸水被害を軽減するため、老朽化している下水道施設の改修・改築とともに、雨水管渠の適切な維持管理に努めます。
- ・避難路や延焼遮断空間としての機能を有する緊急交通路などの整備に努めるとともに、緊急交通路となる(都)砂川樫井線などは無電柱化を推進します。

(7)市街地・住宅地の方針

■都市拠点の充実

- ・JR 和泉砂川駅周辺は、山側の都市拠点として、自然や歴史景観との調和に配慮しつつ、土地の高度利用や立体利用などにより、商業サービス機能などの維持・向上とともに、公共施設の最適化に取り組みます。また、駅前広場の整備を継続的に推進します。

■地域拠点の充実

- ・JR 新家駅周辺は、地域拠点として、公共施設の最適化や日常の生活利便機能などの維持・向上を図るため、地区計画制度の検討や周辺の道路環境の改善に取り組みます。

■居住の促進

- ・都市拠点や地域拠点及びその周辺においては、人口密度を維持し生活サービス機能を確保するため、居住を促進します。

■計画的住宅団地の再生

- ・人口減少・居住者の高齢化が進む泉南一丘団地は、「UR 賃貸住宅活用・再生ビジョン」に基づき、定住促進・住替循環などを促進するとともに、都市課題の共有など、UR 都市機構と連携を図ります。

■空き家対策の推進

- ・空き家所有者などに対する適正管理の意識啓発、専門家による相談窓口体制の整備及び利活用の促進を図るため、情報提供や支援に取り組みます。
- ・管理不全な状態にある空き家などに対して、「空家等対策の推進に関する特別措置法」による措置を的確に講じます。また、特定空家などを含む特定の要件を満たす空き家などの除却促進のため、除却費用の一部について補助を実施します。

■環境にやさしい住宅の普及

- ・生活環境の保全、公衆衛生の向上を図るため、「泉南市生活排水処理基本計画」により、公共下水道及び合併浄化槽の普及を促進します。

(8) 地域環境の形成方針

■農空間の保全と活用

- ・「泉南市農業振興地域整備計画」に基づき、都市的土地利用と農業的土地利用との健全な調和の観点から保存すべき農地を確保する一方、幹線道路沿道を活用した健全で秩序ある土地利用を促進します。
- ・「大阪府農空間保全条例」などにより、きめ細かな営農基盤の整備支援や、農地の貸借などにより、農業者をはじめ、企業や非農業者による利用を促進するなど、農業生産の向上と遊休農地の再生・活用を進めます。

■環境保全対策

- ・働きやすく住みやすい環境を創るため、用途地域や地区計画制度の活用などにより、適切に操業環境と住環境が調和する土地利用に努めます。

■観光資源のネットワーク化

- ・インバウンド観光などを促進するため、市内事業者のほか、DMO や鉄道事業者などと連携を深め、農業公園、熊野街道や史跡海会寺跡などの観光資源についての活用策を検討し、デジタルサイネージや SNS などを活用した情報発信に努めます。

(9)都市景観の形成方針

■自然景観の保全

【山並み景観】

- ・和泉葛城山系の山並み景観を保全し、住宅地と農地、ため池などが一体となった田園風景の景観を創出します。

【河川・ため池景観】

- ・樫井川、金熊寺川などの河川や市内に多数点在するため池については、良好な水辺景観を維持し、和泉葛城山系からの特色ある眺望景観を確保します。

■歴史景観の保全・活用

【歴史景観】

- ・熊野街道(紀州街道)と重なる府道和歌山貝塚線沿道では、信達宿本陣跡や伝統的な形式の建築物などが残る街道景観を守り育てるため、地域と連携して、歴史的なまちなみの保全・活用に努めます。

■まちなみ景観の保全・創出

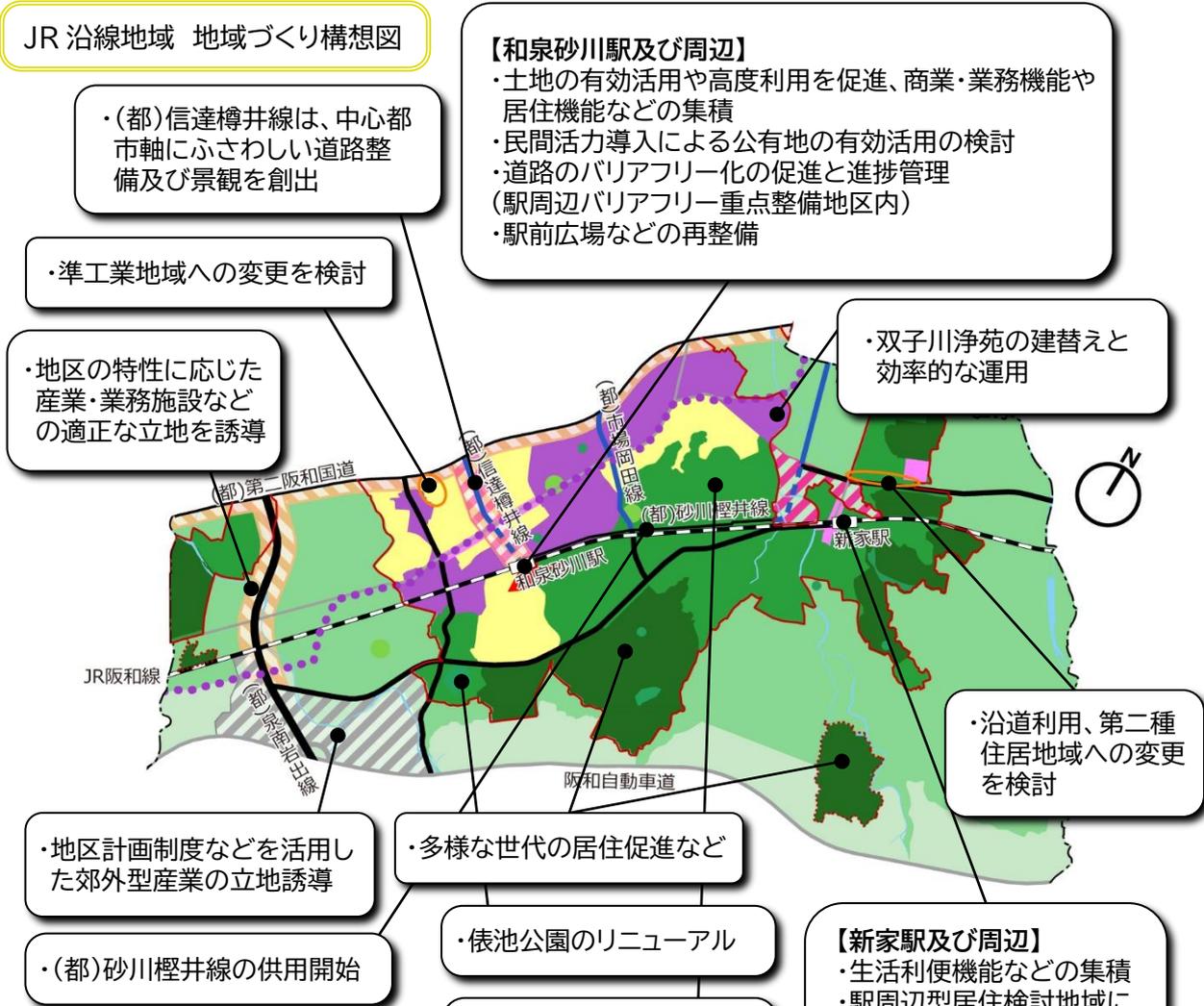
【市街地景観】

- ・市街地や集落地におけるまちなみ景観の向上を図るため、地区計画や建築協定制度の活用により、地域の特性に応じたきめ細かな景観づくりを進めます。また、農空間においては、季節に応じた風景を維持します。

【沿道景観】

- ・広域幹線道路である(都)第二阪和国道沿道区域や、本市の中心都市軸である(都)信達樽井線においては、まちなみやまとまりに調和した秩序ある景観を創出する軸として質の高い道路景観を創出します。
- ・その他の幹線道路は、沿道市街地と一体となったみどりの軸として、沿道景観の向上に寄与する景観を創出します。

JR 沿線地域 地域づくり構想図



・(都)信達樽井線は、中心都市軸にふさわしい道路整備及び景観を創出

・準工業地域への変更を検討

・地区の特性に応じた産業・業務施設などの適正な立地を誘導

【和泉砂川駅及び周辺】
 ・土地の有効活用や高度利用を促進、商業・業務機能や居住機能などの集積
 ・民間活力導入による公有地の有効活用の検討
 ・道路のバリアフリー化の促進と進捗管理(駅周辺バリアフリー重点整備地区内)
 ・駅前広場などの再整備

・双子川浄苑の建替えと効率的な運用

・沿道利用、第二種住居地域への変更を検討

・地区計画制度などを活用した郊外型産業の立地誘導

・多様な世代の居住促進など

・依池公園のリニューアル

・(都)砂川榎井線の供用開始

・「UR 賃貸住宅活用・再生ビジョン」に基づき、定住促進・住替循環などを促進

【新家駅及び周辺】
 ・生活利便機能などの集積
 ・駅周辺型居住検討地域における土地利用の促進
 ・道路のバリアフリー化・道路環境の改善

凡 例	
	商業業務地
	近隣商業地
	低層住宅地
	中高層住宅地
	一般住宅地
	住工混在地
	用途地域変更検討箇所
	沿道利用地
	駅周辺型居住検討地域
	郊外型産業検討地域
	農業地域
	自然地域
	都市公園 (整備済)
	レクリエーション施設
	歴史景観の保全・活用
	整備済 (事業中含む)
	事業中 (予定含む)
	未整備 (暫定供用含む)
	主要河川等
	現行市街化区域界
	現行市街化調整区域内用途地域界
	市域界

【地域全体に関する取組】
 ・道路、公園、下水道などの維持管理・更新
 ・通学路における交通安全施設などの整備推進
 ・市民協働による道路管理の充実
 ・橋梁の長寿命化や狭い道路の拡幅
 ・市街化区域内農地などにおける適切な管理と生産緑地の追加指定
 ・農業生産の向上と遊休農地の再生・活用
 ・公共下水道の効率的な整備、下水道計画区域外における合併浄化槽への設置替えの促進
 ・生物多様性への配慮や市民協働による河川の管理など
 ・水防ため池の耐震検討と計画的改修など
 ・企業などの防災活動や資機材の保管倉庫棟に必要な広場などの確保、災害時における防災農地などの活用
 ・拠点周辺は、人口密度を維持し生活サービス機能を確保し、居住を促進
 ・和泉葛城山系の山並み景観の保全



(4)和泉葛城山麓地域

1)地域の概況

- ・本地域は、阪和自動車道から和歌山県境までの区域で、全域が市街化調整区域であり、金剛生駒紀泉国定公園や和泉葛城近郊緑地保全区域に含まれるなど、良好な自然環境を有しています。
- ・地区内には、桜の名所である堀河ダムをはじめ、バラの名所である農業公園「花咲きファーム」、梅の名所である金熊寺のほか、市民の里、青少年の森、紀泉わいわい村などの観光・レクリエーション施設が数多く立地しています。
- ・面積は 2,443ha(市域の約 50%)と最も広く、人口は 791 人(市域の約 1%)で、関空・りんくう地域と同様に少ない人口数となっています。人口の減少率は約8%と高くなっています。
- ・将来像に係る地域の意向は、移動のしやすさ、高齢者の暮らしやすさや子育てのしやすさ、災害に対する安全・安心、店舗などの利便性が求められています。

2)地域の主な課題

①観光レクリエーション施設などの充実

- ・観光・レクリエーションの施設の充実や管理などによる魅力向上が必要です。
- ・SNS などを活用したインバウンド観光の充実が必要です。

②自然との共生

- ・農地の保全や農林業振興のための施設の適正な誘導が必要です。
- ・森林の適正な管理による、自然環境の保全・活用と土砂災害、洪水の軽減とともに、迅速かつ円滑な避難対策が必要です。
- ・和泉葛城山系の山並み景観の保全し、生活環境などと調和した田園景観の創出が必要です。

③交流基盤などの整備

- ・(都)泉南岩出線の4車線整備の促進など、拠点などへアクセスする移動環境の確保が必要です。
- ・阪和自動車道泉南 IC 周辺では、地域の活力を増進する郊外型産業の誘導が必要です。
- ・既存集落の活性化が必要です。
- ・合併浄化槽の普及促進が必要です。

3)将来像と地域づくりの目標

身近な自然にふれあえる憩いのまち

- ①豊かな自然環境を活かした観光・レクリエーション機能を高めます。
- ②森林の保全や農業の振興などにより和泉葛城山系の自然景観を守り育てます。
- ③公共交通の連携強化や地域の活性化を図ります。

4)地域づくりの方針

(1)土地利用の方針

市街化調整区域の方針

■農業地域

- ・農地及び農家集落の区域については、農業地域として位置づけ、優良な農地の保全を図るとともに、地区計画制度などの手法を検討し、既存集落の維持、農林業振興に寄与する農産物加工場、6次産業の工場、店舗や新たな農業施設などの適正な立地を誘導します。

■自然地域

- ・山間部の森林や丘陵部の緑地は、自然地域として位置づけ、国定公園や近郊緑地保全区域などの貴重な自然資源を保全するとともに、自然に親しむレクリエーションや観光機能などを有する施設の維持・向上に努めます。
- ・市街化調整区域の公共施設及びその周辺は、その機能を支援・補完する施設の立地について、地区計画制度などの手法を検討し、周辺環境に配慮しながら取組を進めます。
- ・土地利用制限が、関連法規との調整が図られているものや災害防止のための具体的な措置が講じられる場合は、周辺環境への影響を十分配慮の上、適正な土地利用を地区計画などにより誘導します。

(2)道路・交通の方針

■幹線道路などの充実

- ・紀北地域との連携強化の為、広域道路ネットワーク計画に「紀泉連絡道路」として位置づけられた(都)泉南岩出線の4車線化を促進します。

■道路橋の維持管理

- ・橋梁については、法令に基づく定期的な点検を実施するとともに、「泉南市橋梁の長寿命化修繕計画」に基づき、予防的・計画的な対応に転換し、費用の縮減及び道路の安全性・信頼性を確保します。

■生活道路、通学路の安全確保

- ・日常生活に密着した生活道路の利便性と通行の安全性及び防災性の向上を図るため、沿道建築物の更新や公共施設の最適化とあわせて市民などの協力のもと、狭い道路の拡幅などに努めます。
- ・通学路に指定されている道路については、道路管理者、警察などと連携した通学路安全対策推進協議会を開催し、交通安全施設などの整備を推進します。
- ・保護者や地域の方々と連携し、通学路の安全確保に努めます。

(3)公園・緑地の方針

■公園緑地の整備・充実

- ・ため池をはじめ、伝統的な地域資源を活用し、レクリエーション機能や観光機能の向上に努めます。

■レクリエーション施設などの充実

- ・農業公園「花咲きファーム」はイングリッシュローズガーデンに加えて、「泉南市都市公園等管理運営プラン」に基づき地域などと協働し、市内外からの来訪者に親しまれる観光レクリエーション施設として魅力向上に努めます。
- ・紀泉わいわい村、青少年の森などは、豊かな自然とのふれあうレクリエーションの場として、利用の促進につながるよう積極的な情報発信に努めます。
- ・桜の名所である堀河ダム、お菊松周辺などの良好な眺望の確保や周辺環境の保全に努めます。

■地域制緑地の保全

- ・豊かな自然環境を確保するため、金剛生駒紀泉国定公園などにおける森林を保全します。

(4)下水道・河川の方針

■汚水施設の整備

- ・単独浄化槽などから合併浄化槽への設置替えを促進します。

■河川の治水対策

- ・金熊寺川などの土砂堆積傾向区間における土砂浚渫などを促進します。

(5)その他公共施設の方針

■火葬場

- ・指定管理者制度の活用により、市民ニーズに対応したサービス水準や柔軟な管理運営を維持します。

(6)都市防災の方針

■災害に強い都市づくり

- ・土砂災害、洪水などから、迅速かつ円滑に避難できるよう、病院や介護施設などの要配慮者利用施設事業者に対し、災害対策マニュアルの作成や避難訓練の実施とともに「避難確保計画」の作成を支援します。

(7)市街地・住宅地の方針

■空き家対策の推進

- ・空き家所有者などに対する適正管理の意識啓発、専門家による相談窓口体制の整備及び利活用の促進を図るため、情報提供や支援に取り組みます。
- ・管理不全な状態にある空き家などに対して、「空家等対策の推進に関する特別措置法」による措置を的確に講じます。また、特定空家などを含む特定の要件を満たす空き家などの除却促進のため、除却費用の一部について補助を実施します。

■環境にやさしい住宅の普及

- ・生活環境の保全、公衆衛生の向上を図るため、「泉南市生活排水処理基本計画」により、公共下水道及び合併浄化槽の普及を促進します。

(8) 地域環境の形成方針

■ 森林の保全と活用

- ・和泉葛城山系の自然環境は、森林の持つ公益的機能の充実に努めるとともに、里山の自然学校「紀泉わいわい村(府民の森)」などを通して、森林・林業・自然環境に対する関心や理解を深める活動を推進します。

■ 農空間の保全と活用

- ・「大阪府農空間保全条例」などにより、きめ細かな営農基盤の整備支援や、農地の貸借などにより、農業者をはじめ、企業や非農業者による利用を促進するなど、農業生産の向上と遊休農地の再生・活用を進めます。

■ 観光・レジャー・レクリエーションの機能の維持・充実

- ・四季を通じた体験型の観光・レジャー・レクリエーション機能の進化を図ります。

■ 観光資源のネットワーク化

- ・インバウンド観光などを促進するため、市内事業者のほか、DMO や鉄道事業者などと連携を深め、金熊寺などの観光資源についての活用策を検討し、デジタルサイネージやSNS などを活用した情報発信に努めます。

(9) 都市景観の形成方針

■ 自然景観の保全

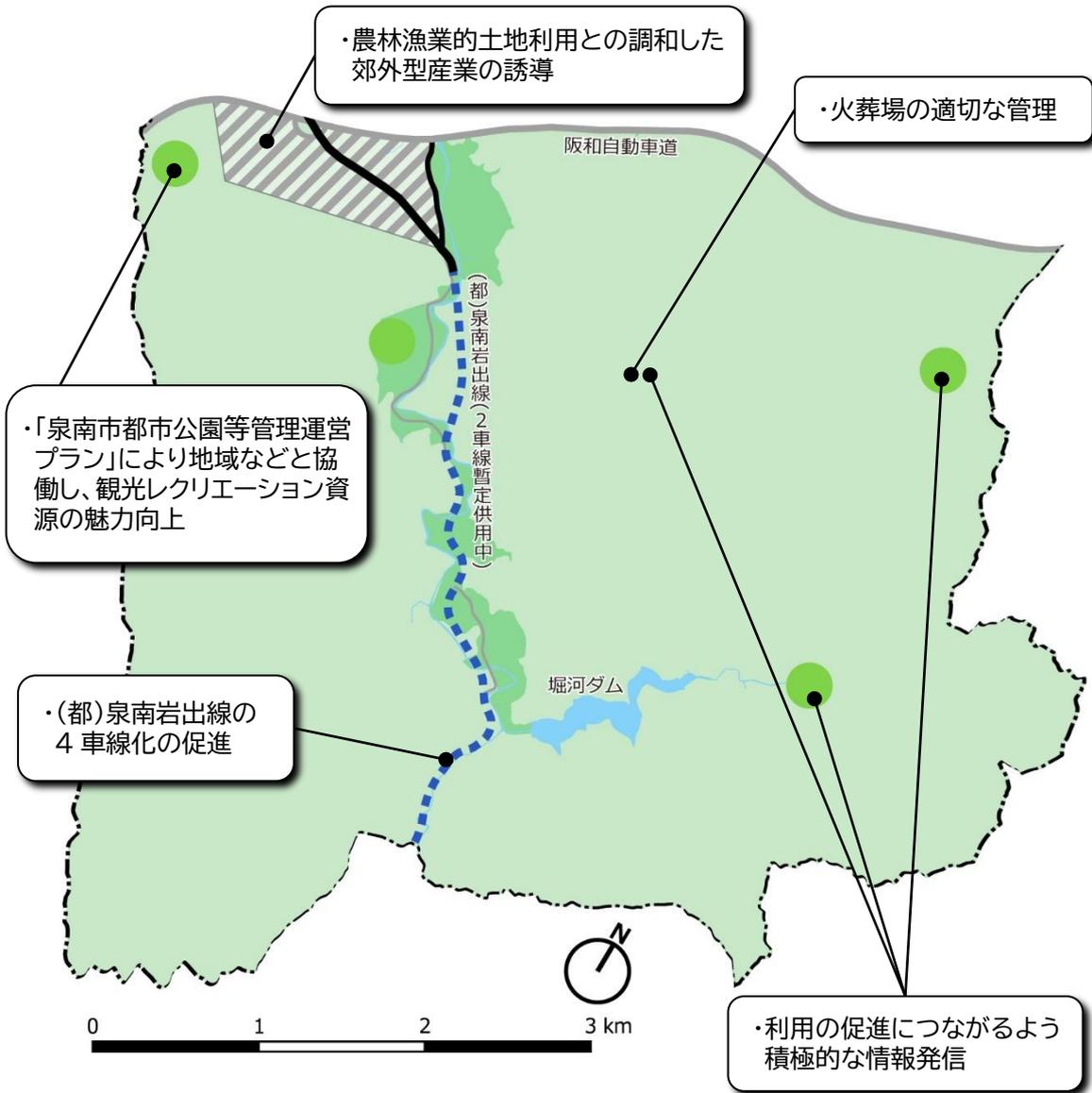
【山並み景観】

- ・和泉葛城山系の山並み景観を保全し、住宅地と農地、ため池などが一体となった田園風景の景観を創出します。

【河川・ため池景観】

- ・金熊寺川などの河川は、良好な水辺景観を維持し、和泉葛城山系からの特色ある眺望景観を確保します。

和泉葛城山麓地域 地域づくり構想図



凡例	
	郊外型産業検討地域
	農業地域
	自然地域
	レクリエーション施設
	整備済（事業中含む）
	事業中（予定含む）
	主要河川等
	市域界

- 【地域全体に関する取組】**
- ・優良な農地の保全と既存集落の活性化
 - ・公共施設を支援・補完する施設の適正な誘導
 - ・通学路における交通安全施設などの整備推進
 - ・橋梁の長寿命化や狭あいな道路の拡幅
 - ・災害対策マニュアルの作成や避難訓練の実施とともに「避難確保計画」の作成を支援
 - ・空き家対策の推進
 - ・公共下水道及び合併浄化槽の普及促進
 - ・森林・林業・自然環境に対する関心や理解を深める活動を推進
 - ・農業生産の向上と遊休農地の再生・活用
 - ・体験型の観光・レジャー・レクリエーション機能の充実
 - ・和泉葛城山系からの自然景観の保全